

科目名	言葉（卒業必修：保育士必修：幼稚園教諭二種必修）				
授業形態	演習	学年	1		
開講時期	2021年度 後期	単位数	1		
担当教員	狩野 奈緒子、五十嵐 啓太				
内容および計画	<p>乳幼児期のことばの発達とそれを支えるための保育者のあり方について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらいと内容、また事例の考察に基づいて理解する。また、ことばの遅れや障がいのある幼児への配慮や援助のあり方について、事例の考察を通して考えを深める。</p> <p>その上で、児童文化財の意義と活用方法（情報機器を含む）について体験的に学び、発達に即した保育を構想・実践する力を養う。また、乳幼児期における音声言語獲得から文字言語習得への過程を効果的に援助するための指導法について体験的に学び、それを活かした保育を構想・実践することを通じて、児童期以降のことばの発達の基盤をつくる技能を身につける。</p> <p>①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解するとともに、小学校における「国語科」の目標とのつながりや違いについて理解している。</p> <p>②乳幼児期のことばの発達を支える援助のあり方について事例的考察を通して理解を深めるとともに、ことばの遅れや障がいへの配慮や援助について場面に応じたあり方を考えることができる。</p> <p>③児童文化財の意義と活用方法について体験的に理解し、乳幼児期の発達に即した保育を構想し、指導案の作成および模擬保育を実施することができる。</p> <p>④日本語の音声言語や文字言語の特徴について体験的に理解を深め、効果的な指導法を用いた保育を構想し、指導案の作成および模擬保育を実施することができる。</p>				
1	領域「言葉」のねらい及び内容の理解—小学校「国語科」とのつながりと違い(担当：狩野奈緒子)				
2	領域「言葉」のねらいと保育者の役割～伝え合いの成立とその援助(担当：狩野奈緒子)				
3	保育の場における児童文化財等の意義や役割、活用法（情報機器を含む）(担当：五十嵐啓太)				
4	児童文化財や教材（絵本）の作成(担当：五十嵐啓太)				
5	乳幼児期のことばの発達と援助(担当：五十嵐啓太)				
6	言葉による伝わり合いと幼児期の終わりまでに育ってほしい力～ごっこ遊びの成立とその援助(担当：狩野奈緒子)				
7	保育の場面から「領域言葉」と保育者の役割を考える～けんかやぶつかり合いの場面から(担当：狩野奈緒子)				
8	領域「言葉」と保育の実際～乳幼児の姿と保育の実際(担当：狩野奈緒子)				
9	乳幼児期のことばの遅れや障害への理解と援助(担当：狩野奈緒子)				
10	指導案の作成①指導案作成および模擬保育実施の留意点(担当：狩野奈緒子)				
11	指導案の作成②幼稚園教育における評価の考え方(担当：狩野奈緒子)				
12	模擬保育の実施～各グループ絵本の紹介（担当：狩野奈緒子）				
13	模擬保育の実施とふり返り～実践から指導案を改善する(担当：狩野奈緒子)				
14	模擬保育の実施とふり返り～改善した指導案を完成する(担当：狩野奈緒子)				
15	まとめ—乳幼児期のことばの発達を支える保育者の望ましいあり方(担当：狩野奈緒子)				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』	文部科学省			
	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省			
	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』	内閣府、厚生労働省、文部科学省			
その他、適宜関係資料を配布する。					

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・樋口正春・仲本美央(2017) 絵本から広がる遊びの世界(風鳴舎) ・大豆生田啓友編著(2016) 「対話」から生まれる乳幼児の学びの物語(Gakken) ・無藤隆 編著(2018) 10の姿+5・実践解説書(ひかりのくに) ・柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編(2019) 最新保育講座 保育内容「言葉」(ミネルヴァ書房) 	
成績評価		
	評価方法	割合(%)
	指導案	30
	模擬保育	30
	期末レポート	40
学習到達目標	内容および計画に記載	
先修条件		
実務経験		
その他		